



目次

説教	孤独の中でも天的な礼拝に与れる恵み	…… 上山 修平	…… 1
教会の課題	遙か将来を夢見て－第2回全国青年の集いへのお願い－	…… 田部 朋彦	…… 2
旧約聖書に聴く	これから、共に 現代に 何を語るか ダニエル書 (8)	…… 吉村 エリ	…… 2
教会、この地とともに⑩	大会建議案を背に	…… 古賀 清敬	…… 3
三浦綾子の生涯と作品について (7)	愛の証しの文学 『続氷点』－“ごめんさい”のあたたかさ－	…… 山下 二郎	…… 4
こいのにあ	神は御心に適う時に御恵みを	…… 森下 辰衛	…… 5
	新たな歴史に向かって	…… 長 和彦	…… 6
	すべてを主に委ねて	…… 岸 正治	…… 6
	全ては摂理のうちに＝神の御業が現れる	…… 菊地 弘	…… 7
	神による御計画の中に守られて	…… 南 信子	…… 7
	御言葉の語られるところに身を置く	…… 鈴木喜代子	…… 8
	新たなみ言葉とともに	…… 岡田 宏明	…… 8
	牧師就職式を記念して	…… 辛島 光一	…… 9
	主の御言葉に聴き続け歩む幸い	…… 中尾 カスミ	…… 9
	教会ニュース	…… 榎本扶美子	…… 10
		…… 榎本扶美子	…… 10



孤独の中でも天的な礼拝に与れる恵み

「わたしは、神の言葉とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた。ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされていたが、後ろの方でラッパのように響く大声を聞いた。」(ヨハネの黙示録1章9～10節)

うえ やま しゅう へい
上 山 修 平

ここ数年、完全リタイアしますという知らせを記した友人たちの年賀状や同窓会を開くという案内が届くことが多くなりました。一方、90歳近くになっても教会の友との交わりを喜び、特伝のお誘いを色んな人に出している方の姿を見て、「教会の交わりはいいよ。週に一回、1時間の礼拝の交わりだけど、積もれば一番長い、死ぬまで、否、死んだ先まで続く交わりだからね」と話すことが多くなりました。しかし、誰も最後には教会に行けなくなり、孤独の中で過ごす時が訪れます。その時をどの様に過ごすことができるかで信仰が試されます。最近、教会の読書会でボンヘッファーの『共に生きる生活』を読み始めましたが、しばらくぶりに読んでその出だしの内容はこのことについて大変信仰的な示唆を与えてくれるものでした。

ヨハネの黙示録の著者である主の弟子ヨハネは、迫害を受けてパトモス島に一人流され、共に礼拝し共に語り合う友は一人もいません。しかし、冒頭に掲げた箇所にあるように、彼は「ある主の日」「霊に満たされ」天的な礼拝を行っています。「天的な礼拝」とはボンヘッファーが使っている表現ですが、ヨハネはその「ある主の日」に一人で行っている礼拝で「霊に満たされ」、決して一人ではなく、多くの教会、多くの人々と共にいるのだという思いに満たされるのです(1章20節)。ボンヘッファーは、この本全体ではキリストを主と仰ぐ信仰者同士で持てる交わりの恵みについて語って行くのですが、その先頭でこのヨハネを挙げ、どんなに孤独の中に置かれても持つことのできる「天的な礼拝」、

イエス・キリストとの交わり、そして多くの他の信仰者との交わりが与えられていることを語るのです。

同じ週に、少し遠方にある老人施設に入られて数年になる婦人を訪問しました。そこで、このボンヘッファーが語っている内容と重なる次のような話を聞きました。「周りの方は、一人であることの多い私を思って、寂しくないのと言って下さるのですが、私はちっとも寂しくないのですよ。だって、教会で過ごした時を思い出し、あんな嬉しいことがあった、その時あの人たちと喜び合った。そんな風にして思い出して過ごしているので、とても忙しいのです」。これを聞いて、今という時だけでなく、過去もこれからも主の御手の中にある全時間を覚えて過ごせる信仰者の恵みを知らされました。

ボンヘッファーは、「キリストが敵のただ中で生きられ、弟子たちからも見捨てられ、十字架上であざけられ、ただ一人であられたことを思うことから信仰者は始めよ、そうすれば、他のキリスト者と目に見える交わりの中に生かされていることは決して当たり前のことではないことが分かるであろう」と述べています。私たちは、なによりもまず、この主イエス・キリストとの交わりが与えられていることを覚える礼拝あずかに与れることを喜びたいと思います。そしてその次に、私たちがこの主によって赦されて、なお罪深い者であるにもかかわらず、互いに赦し合い、一つになって礼拝を捧げられることに感謝したいと思います。(横浜海岸教会牧師)